

# 2014

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊨まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」は中学二年生。五年前から毎夏、いとこばかり五人で合宿生活をするのを楽しみにしている。そこはいとこの章くんあきらの父親の別荘で、今年も「ぼく」、章くん、智明ちめい、ナスとじゃがまるの兄弟の五人が集まった。そこでの生活は、年長の章くんあきらの指図にしたがって規則正しく、遊びも勉強も章くんあきらの言いなりであった。そんな状況に反発を覚えた「ぼく」の一言から、智明、ナスの三人の間で章くんあきらの悪口がエスカレートしていく。一方で三人は別荘に來られなくなることを恐れ、表面上は章くんあきらを怒らせないように、「ぼく」が章君より速く泳げることや、ナスがアメリカ人に習って英語が得意であることも、隠してできないふりをしてきた。そんな三人の嘘を知った章くんあきらは、高校受験になることもあり、ここでの夏を今年限りにすると言った。「ぼく」たちは、思いがけないなりゆきに呆然ぼうぜんとした。

「午後、また競泳するぞ」

みんなで勝負する競泳なのに、章くんはぼくだけを見つめて、言ったんだ。

①これが最後の勝負だ。がんばれよ」

天気の良い日には、空と海のあいだに佐渡島が見える。今日みたいな晴天の日には粟島あわしまも見える。水平線に浮かぶその二つの島にむかって、ぼくらは平泳ぎでゆっくりと進んでいった。

最後の競泳。

一キロほど沖へ出ると、そこをスタートラインに、今度はクロールでの本勝負だ。スタートの直前、章くんあきらに「行くぞ」と頭をはたかれて、ぼくはこくんとうなずいた。

「よい、スタート」

ぼくらは陸へむけていっせいに泳ぎだした。

強烈な午後の日ざしが空のてっぺんから五つの頭を照らします。それは②まるでカメラのフラッシュライトみたいに、息つぎのたびにぼくの瞳を直撃した。額のあたりに一瞬の風を受けとめて、ぼくは再び水の中へすべりこんでいく。

ぼくはもう手をぬかなかった。aがむしやらに手足を動かし、高々としぶきをあげて、陸へ、陸へと突進とっしんしていく。

二百メートルほど来たあたりで、ぼくは早くも章くんあきらをぬいていた。そんなペースじゃ最後までもたないから、やや速度をゆるめて体を休ませる。そのあいだも背後から章くんあきらの迫ってくる気配はなかった。それどころか距離はどんどん開いていく。これじゃ前回のいかさまを白状しているようなもんだけど、ぼくはそのまま真っ走った。

わざと負けるなんて、もういやだ。「がんばれよ」とbはっぱをかけられたとき、ぼくは章くんあきらの目を正視できなかつた。あんなやましさはたкусんだ。

ラスト百メートルの地点で、ぼくはスパートをかけた。うまく波に乗って体を押し出す。ありったけの力をこめて海をかきわけける。気がつくと、ぼくは断トツの一位で陸の上にあった。

力を出しきった爽快感と、同じくらいの脱力感。

砂浜で呼吸を整えていると、数十秒遅れでゴールした章くんあきらが疲れた足どりで歩みよってきた。すうつと右手をさしだったので、反射的にぼくも右手を出すと、③その手をパシヤリとやられ、おまけにほおをつねられた。

「いっ」

ぼくが顔をしかめると、章くんあきらは愉快そうにからからと笑い、そのまま別荘へ引きあげていった。やせっぽちの後ろ姿が、蟹気楼かにきろうのむこうにかすんでいく。

ぼくはその場にへたりこみ、大の字になってまぶたを閉じた。潮と魚とこんぶのにおい。

大きく息を吸いこむと、胸がつまって、苦しくなった。

章くんあきらにつねられたほおがじんじんしていた。

どれくらいそのまま寝ころんでいただろう。休じゆうに張りついた水滴が乾ききったころ、死体みたいにじっとしていたぼくを、だれかが親切に埋めはじめた。ひざのあたりにひやっとした感触。見ると、じゃがまるがせつせと砂をかけている。

「ついに勝ったね」

目が合うと、じゃがまるは言った。

「うん」



ぼくがうなずくと、じゃがまるは急に声を落として、

「でも、ぼくはもう一生、恭くんや章くんに勝てないんだ」

その④思いつめたような口ぶりに、ぼくはあわてて言いかえした。

「なんでだよ、じゃがまる。そんなことないよ」

「だって、もうこんなふうにみんな泳ぐことなんてないでしょ」

「うーん」

「ほらね」

「いや……、でもさ、じゃがまる」

⑤ぼくは必死で言葉を探した。

「そりゃあ、ぼくらの競泳はこれで最後かもしれないけど、でもきつとそのうち、ぼくや章くんよりずっと速いやつが、じゃがまるの前に現れるよ。じゃがまるがそいつに勝ったら、それはさ、ぼくや章くんにも勝ったってことだろ？ そしたら手紙でも書いて知らせてくれよ」

「うん。それはいいかもね」

⑥じゃがまるは大まじめにうなずいた。

「でも、何年かかるかなあ」

「すぐだよ、じゃがまるなら。だってぼくがじゃがまるくらいのころはさ、泳ぐどころか、海がこわくて近づけなかったんだから」

「恭くんが？」

「うん。なのに章くんってば、ぼくの手をがしつとつかんで、ぐいぐい引っぱって、水の中に放りこむんだ。もう、悪魔かと思ったよ。ぎゃーぎゃー泣きながらバタバタやって、必死で陸に逃げようとして……。でもさ、そうこうしてるうちにちよつとずつ、ちよつとずつ、泳げるようになってったんだ」

⑦しゃべりながら、ぼくは再びまぶたをおろしていった。

波打ち際でナスと智明がじゃがまるを呼んでいる。何かめずらしい貝殻を見つけたらしい。

じゃがまるはc一目散に駆けていき、ぼくは右手をそうつと動かして、章くんにつねられたほおに当てた。

まだ、じんじんしていた。

⑧とうぶん消えそうもない痛みだった。

(森絵都『子供は眠る』による)

問一 波線部a、b、cの意味として最も適当なものを、次の中から選んで記号で答えなさい。

a がむしやらに

- ア 正確に
- イ むやみやたらに
- ウ 乱暴に
- エ はりきって
- オ とても速く

b はっぱをかけられた

- ア プレッシャーをかけられた
- イ いやみを言われた
- ウ 応援された
- エ 気合を入れられた
- オ 大声で言われた

c 一目散に

- ア うれしそうに
- イ 振り返りながら
- ウ まっしぐらに
- エ はつと気づいて
- オ あわてて



問二 「ぼく」は、傍線部①「これが最後の勝負だ。がんばれよ」という言葉で、章くんが何を言おうとしたと考えていますか。二十字以内で答えなさい。

問三 傍線部②「まるでカメラのフラッシュライトみたいに」という表現からは、夏の日差しのみならずの他に何がわかりますか。十字以内で答えなさい。

問四 傍線部③「その手をバシヤリとやられ、おまけにほおをつねられた」からうかがえる章くんの気持ちとして最も適当なものを、次の中から選んで記号で答えなさい。

- ア 長い間嘘をついてだましていた「ぼく」に腹をたてている。
- イ 嘘がはつきりして「ぼく」をやりこめたと勝ち誇っている。
- ウ 嘘の仕返しをしながらもわだかまりをなくそうとしている。
- エ 負けたことを認めたくなく同情されたくないと思っている。
- オ 今回の勝負だけで仲直りの握手などできないと思っている。

問五 傍線部④「思いつめたような口ぶり」になったのはなぜですか、二十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「ぼくは必死で言葉を探した」とありますがそれはなぜですか、最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア じゃがまるはいちばん年少なので、理解できる言葉をさがそうとしたから。
- イ じゃがまるの言うとおりが、何とか慰めの言葉をかけたいと思ったから。
- ウ じゃがまるの思い違いなので、何とか訂正しておきたいと考えていたから。
- エ じゃがまるがいとこたちに勝つ力はないが、それは隠しておきたいから。
- オ じゃがまるが落ちこんでいるので、この上期待させないようにしたいから。

問七 傍線部⑥「じゃがまるは大まじめにうなずいた」とありますが、このときのじゃがまるについて最も適当なものを、次の中から選んで記号で答えなさい。

- ア 他の人に勝たないといとこたちに会えないので、絶対負けられないと決意を固めている。
- イ いとこたちと泳いできたので、それ以外の人と泳いでも負けられない自信を取り戻している。
- ウ 「ぼく」にだまされているとは気づかず、いとこたちに勝てるよい方法だと納得している。
- エ 速く泳げるようになればいとこたちとつながっていられると、希望を持つようとしている。
- オ さらに速い人に勝つ可能性はないが、それ以外に方法はないと自分に言い聞かせている。

問八 傍線部⑦「しゃべりながら、ぼくは再びまぶたをおろしていった」とありますが、しゃべりながら「ぼく」はあることに気がついています。それはどういうことだと考えられますか。四十字以内で答えなさい。

問九 傍線部⑧「とうぶん消えそうもない痛みだった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「使えば使うほどよくなる」という現象を専門的には「a用不用の法則」といい、生物の特性とされています。つまり、機械や無生物は使うほど摩擦しますが、①生体は使うほど発達する、ということです。反対に、使わなければ、発達が遅れるだけでなく、I することにもなりません。

この発達は、構造と機能のいずれについてもいえます。( A )、筋肉はよく使えば構造が発達するだけでなく、力も強くなり、器用にもなります。この器用さは筋収縮の微妙な調節によるものですが、それは主として神経系の仕組みです。

( B )、脳からは筋肉を収縮させる指令が送り出されていますが、同時にその運動がどのように進行しているか、目的を達成しているかどうか固有受容器などから情報として脳に送り込まれています。その情報が大脳皮質の運動野や小脳、さらにその周辺で処理されて、



指令が調節される、という具合にして器用さが付加されるわけです。(C)、このような機能は経験を重ね、つまり失敗をくり返すことによって育つてゆくのです。

情報の処理といえば、形や色の違いを見分けたり、違う音を聞き分けたりするのも情報処理です。このような機能も経験を重ねることによって育つてゆきます。(D)、はじめは違うものも同じに受けとめているのですが、それを区別しなければならぬ必要に迫られる経験を重ねることによって、区別ができるようになるのです。いわば、脳を使わなければ、上手に体を動かすこともできないし、丸や三角を見分けることもできない、ということになるのです。

頭は使えば使うほどよくなる、というのは、ふつうは、勉強したりもの考えたりのほど脳はよくなる、というような意味でいわれているようです。たしかに、それも事実です。しかし、②こういうとらえ方は、脳のはたらきの幅を狭くとらえているところから生まれるのです。勉強をしたり、ものを考えたりするのも脳のはたらきには違いありませんが、それはその一部に過ぎないし、しかも上層の部分です。脳は人間の行動や機能のすべてを統括しているものですから、器用に体を動かすのも、違うものを区別するのも、ものを食べるのも、すべて脳のはたらきによるのです。いい換えれば、脳は人間の生存活動のすべてにかかわっているということになります。(E)、そのはたらきはすべて経験を重ねることによって育つてゆくのです。そして、器用になるのも、もの区別ができるようになるのも、「頭がよくなる」ということになります。食べ物の味に敏感になったり、b過不足なく栄養を摂取することができるようになったりするのも、「頭がよくなる」ということになります。

しかも、③これらのはたらきは基礎的なもので、それが育たなければ、学力や思考力などの上層のはたらきも育ちません。違うものを違うものとして区別できないようでは、高度の知識や理論がわかるはずはありません。「認識は実践の中で育つてゆく」という実践哲学の主張はきわめて妥当なもので、これは「頭は使えば使うほどよくなる」という意味であり、「頭を使う」とは実践とか体験という意味です。勉強は実践のひとつに過ぎません。

「頭がよくなる」ということを「勉強ができるようになる」というような狭い意味でとらえると、「頭を使う」とは「勉強をする」とか「ものを考える」ということに結びつけてしまいます。勉強も大切かもしれませんが、④脳は全体として育つてゆく(よくなってゆく)ことが肝心で、そうしなければ勉強もほんとうに身につかないのです。また、「脳を使う」ということだけでいえば、人間はなにをしても脳を使っていることになりました。従って、誰もがいつでも必ず「頭がよくなっている」ことになりますから、⑤問題は、どのように頭をよくしたいのか、ということになるでしょう。

(千葉康則『ヒトはなぜ夢を見るのか―脳の不思議がわかる本』による)

(注1) 固有受容器……筋肉や腱などに分布して筋肉の収縮状態を情報として脳に送り込む器官。

(注2) 大脳皮質の運動野……大脳の表面にあり、神経細胞からできている感覚・意識などの中枢として働く部分の運動を担当する部位。

(注3) 小脳……脳髓の一部。大脳の下部、延髄の後方にあり、随意筋を調節し、体の平衡を保つ。

問一 波線部 a「用不用」と b「過不足」の意味をわかりやすく言いかえなさい。

問二 傍線部①「生体は使うほど発達する」ことを「筋肉」「情報処理」の場合について、それぞれ本文中の言葉を使って説明しなさい。

問三 文中空欄 1 に入る最も適当な語を次のア～オから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 減少    イ 成長    ウ 退化    エ 滅亡    オ 維持

問四 文中空欄 (A) (B) (C) (D) (E) に入る最も適当な言葉をそれぞれ次のア～エから選んで、記号で答えなさい。ただし、一つの語を複数回使用してもよいこととします。

ア しかし    イ そして    ウ たとえば    エ つまり



問五 傍線部②「こういうとらえ方は、脳のはたらきの幅を狭くとらえているところから生まれる」といえる理由として最も適当なものを次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

- ア 勉強したりものを考えたりするほど脳はよくなるとは一部の場合にのみ当てはまるもので、必ずそうなるとはいえないから。
- イ 勉強したりものを考えたりすることは脳のはたらきで最も重要で、ことさらに強調するのは狭い考え方だから。
- ウ 頭を使えば使うほど頭がよくなるというのは、脳のはたらきの一部にしかあてはまらないから。
- エ 脳は人間の生体活動すべてを統括し、勉強や考えることは脳のはたらきの上層のはたらきにすぎないから。
- オ 脳は人間の行動や機能のすべてを統括するので、勉強やものを考えることは脳のはたらきが異なるから。

問六 傍線部③「これらのはたらき」は何を指していますか。本文中から三つすべて十字以内で抜き出してください。

問七 傍線部④「脳は全体として育つてゆく(よくなってゆく)ことが肝心で、そうしなければ勉強もほんとうに身につかない」理由を本文中の言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

問八 傍線部⑤「問題は、どのように頭をよくしたいのか」とありますが、頭をよくするために何をすることが必要でしょうか。本文中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

問九 本文の内容にあてはまるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 脳からの指令で筋肉は動くので、筋肉を発達させるためには脳のはたらきを高めなければならない。
- イ 情報処理は脳のはたらきによって左右されるので、頭のよい人ほど上手にできるのである。
- ウ 勉強したりものを考えるのは脳のはたらきの一部だが、最も重要なので上位に位置している。
- エ 食べ物の味に敏感に感じたり、必要な栄養をとりいれることができることも脳のはたらきである。
- オ 「頭をよくすること」は勉強したりものを考えることではないので、他のことに目を向けなければならない。

☐ 次の傍線部のカタカナにあたる漢字を書きなさい。

- ① ジュンシンな心を持つ子供。
- ② 父から刀の作り方をデンジュされる。
- ③ 戦いにヤブレた兵士。
- ④ おじいちゃんのカンピョウをする。
- ⑤ 広大な土地でコクモツを育てる

注意  
字数制限の問題では、句読点も  
一字として数えます。



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

| 問一 | 問二 | 問三 | 問四 | 問五 | 問六 | 問七 | 問八 | 問九 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| a  |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| b  |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| c  |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |    |    |    |

|    |  |
|----|--|
| 得点 |  |
|----|--|



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

| 問一 | 問二         | 問三 | 問四 | 問五 | 問六 | 問七 | 問八 | 問九 |
|----|------------|----|----|----|----|----|----|----|
| a  | 情報処理<br>筋肉 |    | A  |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    | B  |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    | C  |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    | D  |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    | E  |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
| b  |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |
|    |            |    |    |    |    |    |    |    |

|      |      |
|------|------|
| 受験番号 | フリガナ |
|      | 氏名   |



□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

|    |
|----|
| ①  |
| ②  |
| ③  |
| れた |
| ④  |
| ⑤  |